



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月12日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福
 コード番号 2058 URL <http://www.k-higashimaru.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 紘一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 木通 昌生 (TEL) 099-273-3859
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績 (平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	2,539	4.1	62	△26.3	74	0.7	29	△37.5
27年3月期第1四半期	2,438	2.4	84	30.4	73	△11.2	47	9.2

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 27百万円(△56.7%) 27年3月期第1四半期 64百万円(△8.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	6.31	—
27年3月期第1四半期	10.10	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	10,829	5,639	52.1
27年3月期	11,415	5,653	49.5

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 5,639百万円 27年3月期 5,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,704	16.1	374	3.8	379	△5.2	195	△11.5	41.47
通期	12,839	11.4	575	1.2	594	△8.6	267	△23.4	56.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期1Q	4,746,000株	27年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	40,889株	27年3月期	40,889株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期1Q	4,705,111株	27年3月期1Q	4,705,111株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策や金融緩和策等の下支え効果や大企業の収益改善が進んだことなどを背景に、雇用・所得環境に改善がみられ緩やかな回復基調が持続しております。しかしながら、円安進行に伴う輸入原材料価格の高騰や新興国経済の景気減速などから、生産・輸出の増勢が鈍化する懸念があり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループを取り巻く経営環境は、主原料（魚粉・小麦粉・大豆等）の価格は高止まりで推移しているほか、輸入原材料は円安の影響を受け売上原価の上昇基調にあります。また、消費者の節約・低価格志向は根強く、企業間の価格競争が続く厳しい環境で推移いたしました。

こうした環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに、材料コスト上昇分を販売価格に転嫁するなど、売上成長を模索しながら利益水準の維持・向上に取り組んでまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は25億39百万円と前年同期と比べ1億円（4.1%）の増収、営業利益は62百万円と前年同期と比べ22百万円（26.3%）の減益、経常利益は74百万円と前年同期と比べ0百万円（0.7%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は29百万円と前年同期と比べ17百万円（37.5%）の減益となりました。

なお、養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。したがって、第1四半期連結会計期間の売上高及び売上原価は、第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間と比べ低くなる傾向にあります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①水産事業

水産事業におきましては、中南米の輸入魚粉マーケットは、順調な漁模様で魚粉相場安含みの値動きにあるものの、最需要国である中国や欧州の需要は堅調であることから高値基調を維持しており、今後の相場見通しは需給バランス次第という見方が強く不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、魚粉原料価格高騰分を販売価格に転嫁し、本年4月からエビ類及び魚類用の配合飼料の値上げを実施いたしました。これにより、ヒラメ飼料類及び雑魚飼料類は、養殖稚魚導入尾数が増加したことや値上げ効果もあって前年同期を上回りましたが、エビ飼料類、ハマチ飼料類及びマダイ飼料類は、台風の影響や梅雨時期の長雨により低水温養殖環境で養殖魚の餌食いも鈍く、値上げ前の前期販売分消化遅れの影響（反動減）や他社メーカーとの価格競争等から前年同期を下回りました。

子会社のマリンテック株式会社（愛知県田原市）は、水産種苗の生産・販売は伸びたものの、水産初期飼料の販売が振るわず、総じて前年同期を下回りました。また、平成26年11月に子会社化した永屋水産株式会社（東京都中央区）の、マダイ・カンパチを主とした活魚及び配合飼料の販売が当期から寄与しております。

その結果、売上高は14億91百万円と前年同期と比べ1百万円（0.1%）の増収となりました。セグメント利益は55百万円と前年同期と比べ28百万円（33.8%）の減益となりました。

②食品事業

食品事業におきましては、雇用・所得環境の改善や株価水準の堅調な維持は家計部門の資産効果を高めていることなどを背景に、個人消費は力強さに欠けるものの緩やかな回復基調にあります。百貨店では富裕層を中心に高額商品の販売は堅調な動きにある反面、最寄品（日用品や食料品等）については、消費者の節約・低価格志向が根強く、企業間の価格競争が続く厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況のなか、原材料、燃料及び物流費等に係るコストが年々増加している影響から、今年4月、自社ブランド商品の販売価格の値上げを実施いたしました。これにより、そうめん類は、梅雨時期の低温や長雨などの影響を受け低調に推移し前年同期を下回りましたが、即席めん類、皿うどん類、うどん類及びそば類は、値上げ効果のほかPB商品（販売店独自の商品）企画提案や新規ルート客先開拓で順調に推移し前年同期を上回りました。

子会社のコスモ食品株式会社（横浜市磯子区）は、カレールー商品を中心に定番導入が図られ前年同期を上回りました。また、株式会社向井珍味堂（大阪市平野区）は、きな粉及び香辛調味料等の販売が順調に推移し前年同期を上回りました。

その結果、売上高は10億47百万円と前年同期と比べ98百万円（10.4%）の増収となりました。セグメント利益は92百万円と前年同期と比べ23百万円（34.3%）の増益となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ5億86百万円減少し、108億29百万円となりました。これは、主として有形固定資産のその他が62百万円増加しましたが、現金及び預金が4億32百万円、受取手形及び売掛金が1億20百万円、原材料及び貯蔵品が1億13百万円減少したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ5億72百万円減少し、51億89百万円となりました。これは、主として買掛金が2億81百万円、短期借入金が1億60百万円、未払法人税等が78百万円減少したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ14百万円減少し、56億39百万円となりました。これは、主として利益剰余金が12百万円減少したことなどによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績予想につきましては、平成27年5月15日開示の「平成27年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,284,990	1,852,430
受取手形及び売掛金	1,720,370	1,600,239
有価証券	96,352	98,208
商品及び製品	427,179	452,600
仕掛品	99,588	106,237
原材料及び貯蔵品	1,110,048	996,329
その他	166,005	190,342
貸倒引当金	△12,303	△12,369
流動資産合計	5,892,231	5,284,018
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,177,451	1,183,110
機械装置及び運搬具(純額)	693,590	663,323
土地	2,091,642	2,091,642
その他(純額)	48,923	111,671
有形固定資産合計	4,011,607	4,049,747
無形固定資産		
のれん	444,954	425,298
その他	28,801	28,284
無形固定資産合計	473,756	453,582
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,078,821	1,082,260
貸倒引当金	△40,482	△40,482
投資その他の資産合計	1,038,339	1,041,777
固定資産合計	5,523,703	5,545,107
資産合計	11,415,934	10,829,126

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	792,883	510,896
短期借入金	1,990,100	1,829,936
未払法人税等	96,144	17,436
賞与引当金	116,463	94,337
その他	428,425	400,716
流動負債合計	3,424,016	2,853,322
固定負債		
長期借入金	1,683,450	1,674,500
役員退職慰労引当金	412,289	416,529
退職給付に係る負債	73,332	74,613
その他	169,115	170,935
固定負債合計	2,338,186	2,336,577
負債合計	5,762,203	5,189,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	4,513,585	4,500,940
自己株式	△28,968	△28,968
株主資本合計	5,546,916	5,534,271
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,067	102,736
繰延ヘッジ損益	2,747	2,217
その他の包括利益累計額合計	106,815	104,954
純資産合計	5,653,731	5,639,225
負債純資産合計	11,415,934	10,829,126

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	2,438,704	2,539,303
売上原価	1,930,000	1,987,949
売上総利益	508,704	551,353
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	81,019	89,328
貸倒引当金繰入額	2,017	276
給料及び賞与	115,739	114,643
賞与引当金繰入額	24,187	21,875
退職給付費用	5,268	5,123
役員退職慰労引当金繰入額	3,605	4,240
その他	192,003	253,338
販売費及び一般管理費合計	423,841	488,826
営業利益	84,862	62,526
営業外収益		
受取利息	108	211
受取配当金	2,322	2,535
為替差益	-	4,188
受取手数料	944	4,640
雑収入	4,167	7,131
営業外収益合計	7,542	18,708
営業外費用		
支払利息	7,271	5,974
為替差損	9,458	-
雑損失	1,848	907
営業外費用合計	18,578	6,882
経常利益	73,826	74,353
税金等調整前四半期純利益	73,826	74,353
法人税、住民税及び事業税	25,676	41,562
法人税等調整額	611	3,090
法人税等合計	26,287	44,652
四半期純利益	47,538	29,700
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	47,538	29,700

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	47,538	29,700
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,932	△1,331
繰延ヘッジ損益	△210	△529
その他の包括利益合計	16,721	△1,860
四半期包括利益	64,260	27,839
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	64,260	27,839
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,490,332	948,372	2,438,704	—	2,438,704
セグメント利益	83,480	68,918	152,398	△78,572	73,826

(注)1 セグメント利益の調整額△78,572千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費68,999千円、営業外収益2,848千円、営業外費用12,421千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,491,950	1,047,352	2,539,303	—	2,539,303
セグメント利益	55,235	92,563	147,799	△73,445	74,353

(注)1 セグメント利益の調整額△73,445千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費76,048千円、営業外収益6,083千円、営業外費用3,481千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。